

## 愛知の天理教

愛知県の伝道について考えたい。

愛知県は名古屋を中心とした大都市圏である。そのほとんどは中京圏ともいい、製造業が盛んで東京首都圏、京阪神の関西圏と共に日本の経済を支えている。したがって人口も多い。

愛知県には 842 カ所の教会がある（『みちのとも』立教 175 年 11 月号）。単純な数の比較では大阪、兵庫、東京、北海道に次いで 5 番目に多い。人口が 742 万人（2011 年 10 月総務省統計局）で 10 万人あたりの教会数は 11.35 カ所になる。人口比では日本の平均よりやや少ないが、人口の多い県はどうしても人口比の教会数は多くない。

最初に愛知県の天理教がどこから伝わったか概略を述べる。県名で言えば静岡県、滋賀県、岐阜県、和歌山県、三重県、東京からである。東京以外は愛知県の周りの地域である。教会系統で言えば山名、名京系統、甲賀系統、東本系統、南海系統となる。詳しく述べていこう。

愛知県の教会 842 カ所を大教会別で多い順に並べると、

本愛— 127 カ所 東愛— 61 カ所 愛知— 47 カ所

中野— 46 カ所 愛静— 37 カ所 敷島— 36 カ所

以下、甲賀、蒲生、名京、南紀と続く（『天理教教会所在地録立教 173 年版』による筆者の調査）。

これらを元の系統に分けると、甲賀系統が最も多く 170 カ所を越える。現在の大会名では甲賀、中野、蒲生、日野、岐阜、東濃などである。次に多いのが山名・名京系統で 150 カ所余り。同じく名京、愛知、小牧、幅下である。さらに、ほとんどが本愛だが東本系統 130 カ所余、東愛、愛静の南海系統が 110 カ所を越える。この 4 系統で愛知県の 7 割近くになる。その他、敷島、南紀、高安も 20 余から 40 近くの教会を有している。

上記 4 系統を少し詳しく見ていこう。

甲賀系統は滋賀県と岐阜県を経て愛知県に入った。滋賀県には湖東、甲賀、水口、中野、蒲生、日野の大教会があり、日本各地へ伝道活動が繰り広げられた。本連載第 7 回「京都から滋賀へ、そして全国へ」に述べた通りである。滋賀県 6 大教会は全て琵琶湖の東に始まった。鈴鹿の山を越え、三重県、岐阜県に伝わり、愛知県に入った。その結果、甲賀系統 170 カ所に湖東、水口系統を含め 200 を越える教会が愛知県内にできた。

山名、名京系統の 150 カ所は全てと言っていいほど静岡県から入ってきた。静岡はおちばから見れば愛知より遠い。しかし天理教の信仰は静岡が早く、おちば方向に逆戻りするよう愛知に入った。山名初期の伝道は静岡県中部、西部にまたたく間に広まり周智郡森町の橋本伊平が名古屋で布教を始めた。それから愛知、小牧、幅下の各大教会が生まれることになる。

本愛大教会は東京の東本大教会の布教師安藤正吉が愛知県に布教したことが始まりである。最初に触れた通り、本愛は愛知県で最も多くの教会を有している。本愛部内の多くは近くに根を下ろした。全本愛の 8 割近くが県内にある。東本初代会長中川よしは安藤に「名古屋はあなた一人に任せます。名古屋へは東本から二人と布教をさせません」と言ったという。

東京からの愛知伝道は高安大教会—都南分教会の系統もある。さらに麴町大教会の愛町分教会は教会数は 1 だが、県の内

外に布教所や布教拠点を持ち、全貌が計り知れないほど大きい。全教で特別な存在であり、愛知県の枠にはめて論ずることはできない。多くの教内者が知るところである。

天理教伝道の一般論として、遠隔地への伝道地選定の基本はおちばとは逆方向、つまりおちばからより遠くへ伸ばそうとする傾向がある。しかし東京から愛知県への伝道はこの基本とは違う。特殊な例として注視すべきであろう。機会があれば本連載の中で触れたい。

南海系統の東愛、愛静大教会も愛知県に約 100 カ所の教会を有している。明治 24 年に起こった濃尾地震は死者 7,000 人を越える大地震となった。和歌山県の南海大教会（当時支教会）では早速、大工経験者らからなる災害救援隊を現地に派遣、復旧作業に当たりその後も現地に止まり布教活動をした。これが東愛大教会の始まりである。

以上述べたように愛知県には隣接する岐阜県、三重県、静岡県から伝道され、さらに滋賀県、東京、和歌山県からも伸びてきた。では、愛知県からはどこへ信仰を伝えたのであろう。

最も大きな伝道成果を挙げたのは名古屋大教会の新潟、東北伝道であろう。名古屋大教会初代会長になる近藤嘉七は自らの出身地である新潟県に布教し、義兄近藤徳蔵を信仰に導いた。やがて徳蔵は北洋大教会を興す。さらに山形を中心に北海道にまで伝道線をのばすことになる。名古屋大教会は教会数 81 のうち愛知県内は 10 カ所のみであり、大半は山形などの東北にある。他の愛知県内大教会が部内教会の多くを愛知県内に持っているのと大いに異なる点である。

しかしその他では愛知県から伸びた所はあまりない。県外への伝道も隣接県が多く、遠隔地へは北海道と関東に少しあるくらいである。名古屋大教会の他では小牧大教会と近年まで愛知県にあった幅下大教会が北海道伝道を試みた。しかし、愛知県へ入った伝道に比べると愛知県から出た伝道は格段に少ない。

愛知県は現教会数 800 を越え、5 番目に教会の多い県である。また、これまで述べてきたように近隣地域や東京から伝道線が入り有力な教会が生まれた。しかし、愛知県から伸びた伝道は意外に少なく、またその理由を一概に言うことができない。

愛知県の産業について最初に少し触れたが、自動車産業をはじめ製造業が盛んである。製品は日本中、世界中へ運ばれる。愛知県から大量に物が出て行くのである。しかし天理教の信仰は積極的に出て行くことがなかったのであろうか。

元々、仏教、特に浄土真宗の盛んな地域であるから天理教の伝道には少なからず困難があっただろう。しかし、一旦入った信仰が外へ出て行くのに困難な理由が見つからない。

ここで筆者の推測を書きたい。愛知県で天理教信仰がある程度盛んになり、伝道者が熱心に活動するようになった時、近隣の地域である三重、静岡、岐阜はすでに信仰が盛んになっていたのではないか、それ故愛知県外へ伝道しようという条件になかったと考える。こじつけかも知れないが。特に、天理教伝道の一般的傾向であるおちばより遠い所へ伝えようという自然な感情を考えると、愛知から見ておちばと逆方向にある静岡県のほうが早く天理教が盛んになったということであろうか。